

Business Report

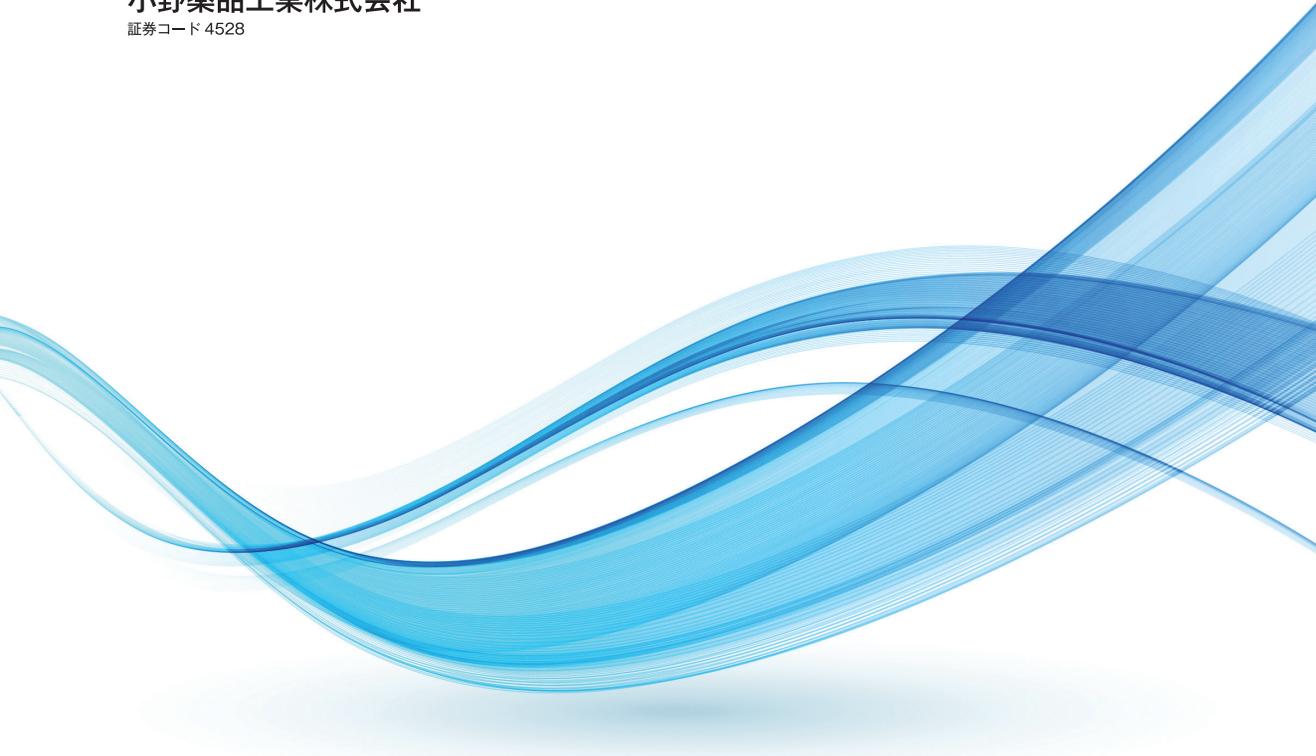
# ONNO'S VIEW

第74期 第2四半期のご報告

2021年4月1日～2021年9月30日

小野薬品工業株式会社

証券コード 4528



## Dedicated to the Fight against Disease and Pain

### 病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、挑戦を続けています。



株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第74期第2四半期累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)につきましては、抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」の非小細胞肺癌一次治療や食道がん二次治療での使用が拡大するとともに、糖尿病、慢性心不全および慢性腎臓病治療剤「フォーシーガ錠」等の主要新製品の売上が堅調に推移しました。また、ロイヤルティ収入が増加したことで、売上収益は増収となりました。

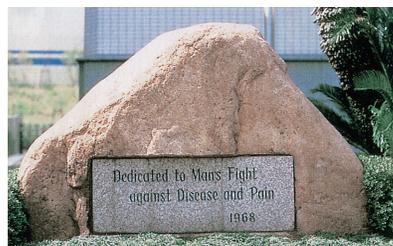
利益面については、開発活動の回復などに伴い研究開発費が増加するとともに、積極的なWeb講演会実施や新製品の発売および効能追加に係る費用の増加などにより販売費及び一般管理費が増加したものの、売上収益の増加により増益となりました。

新薬創製の成功確率が年々低下し、研究開発コストが増大するなかで、国内においては医療費を抑制するための種々の薬剤費抑制政策が推し進められており、新薬開発メーカーにとっては引き続き厳しい環境が続いています。当社は、研究開発力をさらに高めるとともに、海外での事業展開拡大にむけて、次のとおり取り組んでいきます。

## 成長戦略

製品価値 最大化	積極的な研究開発活動により、早期の上市および効能追加取得を図ります。また、製品ライフサイクルのステージごとの環境変化を機敏に捉え、常に競争優位性を担保しうる戦略立案を実現することにより、上市から最短でピークセールスを達成し、各製品のポテンシャルを最大限引き出せるよう取り組んでいます。
研究開発の 強化	医療ニーズの高い疾患領域を重点領域に据えて疾患専門性を高め、オープンイノベーションの取り組みを推進するとともに、インフォマティクス技術、ヒト疾患モデル作製技術などの創薬テクノロジーを活用して自社創薬を推進しています。
海外への挑戦	当社の新薬を世界中の患者さんに提供できるよう、まずは大規模な営業組織を必要としないニッチな領域の製品について、海外での自社販売を目指して取り組んでいます。すでに、韓国・台湾では、現地法人を設立して製品の販売を行っています。欧米については、今後の自社販売を視野に入れた開発を含めた体制の整備・強化に取り組んでいます。
企業基盤の 強化	企業価値を向上させ、持続的に成長するために、継続的に企業基盤の強化に取り組んでいます。また、さまざまな環境の変化に対応し、グローバル化を牽引できる人材育成や多様性向上を推進するとともに、すべてのステークホルダーに対する社会的責任を果たすべく、Environment（環境）、Society（社会）、Governance（企業統治）への取り組みも強化しています。

わたしたちは、病気で苦しんでいる世界中の患者さんに、医療現場のニーズに沿った革新的な新薬を一日も早くお届けできるよう、一丸となって挑戦を続けていきます。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



1968年（昭和43年）に中央研究所（現在の水無瀬研究所）の建設を記念して建立された、「企業理念」が刻まれた石碑。

代表取締役社長 **相良 暁**

## 売上収益

**1,741億円** 前年同期比 **15.7%増**



### オプジーボ等、主要新製品の売上増、ロイヤルティ収入の増加により増収

非小細胞肺癌一次治療、食道がん二次治療への使用拡大による「オプジーボ点滴静注」の売上増加、「フォーガ錠」「ベレキシブル錠」などの主要新製品の売上増加、ロイヤルティ収入の増加などにより、当第2四半期累計期間の売上収益は前年同期比236億円(15.7%)増の1,741億円となりました。

## 営業利益

**582億円** 前年同期比 **11.0%増**

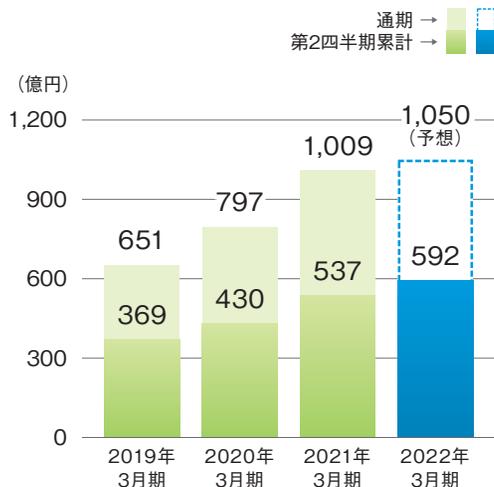


### 販売費及び一般管理費などが増加するも、売上収益の増加により増益

開発活動の回復に伴う研究開発費の増加、積極的なWeb講演会実施や新製品の発売および効能追加に係る営業活動経費の増加などによる販売費及び一般管理費の増加はあったものの、売上収益の増加により、当第2四半期累計期間の営業利益は前年同期比58億円(11.0%)増の582億円となりました。

## 税引前四半期利益

**592億円** 前年同期比 **10.4%増**

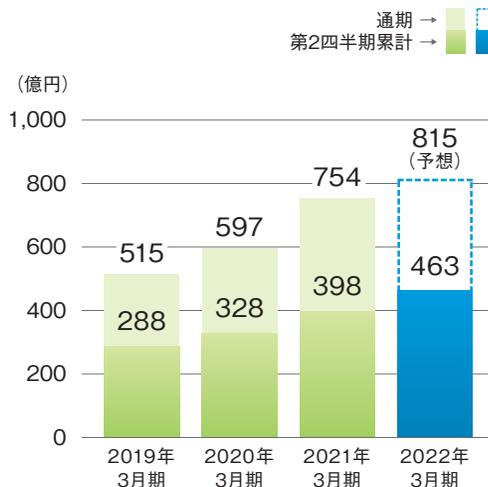


### 営業利益増加により 増益

金融収支等は前年同期比2億円(16.8%)減の11億円となったものの、営業利益の増加により、当第2四半期累計期間の税引前四半期利益は、前年同期比56億円(10.4%)増の592億円となりました。

## 親会社の所有者に帰属する四半期利益

**463億円** 前年同期比 **16.2%増**



### 税引前四半期利益の増加に伴い 増益

税引前四半期利益の増加に伴い、当第2四半期累計期間の親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比64億円(16.2%)増の463億円となりました。

# 連結業績ハイライト

## 財政状態

(単位:百万円)

	前期末 2021年3月31日	当第2四半期会計期間末 2021年9月30日
流動資産	247,642	276,115
非流動資産	499,200	496,785
資産合計	746,842	772,900
負債合計	105,685	93,202
資本合計	641,157	679,698
負債及び資本合計	746,842	772,900

## 損益の状況

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 自2020年4月1日 至2020年9月30日	当第2四半期累計期間 自2021年4月1日 至2021年9月30日
売上収益	150,474	174,077
売上総利益	108,714	128,510
販売費及び一般管理費	△29,817	△37,656
研究開発費	△25,733	△32,552
営業利益	52,401	58,171
税引前四半期利益	53,674	59,231
四半期利益	39,888	46,334
親会社の所有者に帰属する四半期利益	39,849	46,290

## 連結持分変動計算書(要旨)

(単位:百万円)

	資本金	資本 剰余金	自己 株式	その他の 資本の 構成要素	利益 剰余金	親会社の 所有者に 帰属する持分	非支配 持分	資本 合計
2021年4月1日残高	17,358	17,231	△44,705	62,299	583,363	635,547	5,610	641,157
四半期包括利益合計	-	-	-	5,918	46,290	52,208	44	52,252
所有者との取引額等合計	-	△10	29	△1,742	△11,984	△13,707	△4	△13,711
2021年9月30日残高	17,358	17,221	△44,676	66,475	617,669	674,048	5,650	679,698

▶より詳しい業績の情報は、当社のIRサイトをご覧ください。 <https://www.ono.co.jp/ir/library>

小野薬品 IR

検索

## キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

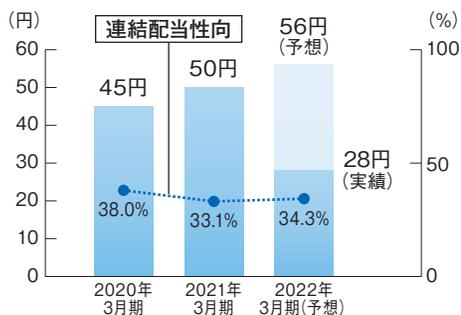
	前第2四半期累計期間 自2020年4月1日 至2020年9月30日	当第2四半期累計期間 自2021年4月1日 至2021年9月30日
現金及び現金同等物の期首残高	69,005	61,045
営業活動によるキャッシュ・フロー	31,314	40,369
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,033	△ 5,385
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 12,488	△ 14,968
現金及び現金同等物の増減額	14,793	20,016
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響額	3	56
現金及び現金同等物の四半期末残高	83,800	81,117

## 主要経営指標

	前期末 2021年3月31日	当第2四半期会計期間末 2021年9月30日
親会社所有者帰属持分比率(%)	85.1	87.2
1株当たり親会社所有者帰属持分(円)	1,273.28	1,350.36
	前第2四半期累計期間 自2020年4月1日 至2020年9月30日	当第2四半期累計期間 自2021年4月1日 至2021年9月30日
基本的1株当たり四半期利益(円)	79.84	92.74

## 中間配当金について

〈年間配当実績と当期予想〉



株主の皆さまへの当期の中間配当金につきましては、1株につき28円とさせていただきます。なお、当期の期末配当金につきましても1株につき28円とし、年間にお支払いする配当金は、1株につき56円を予定しています。

## 主な製品の売上高の状況と見込み

製品名	当第2四半期 売上高(実績) (億円)	対前年同期 増減率	2020年度 売上高(実績) (億円)	2021年度 売上高(見込み) (億円)	対前期 増減率
オプジーボ点滴静注	561	14.3%	988	1,100	11.3%
フォシーガ錠	156	49.3%	224	350	56.6%
グラクティブ錠	127	△1.7%	255	245	△3.9%
オレンシア皮下注	112	3.3%	219	225	2.7%
パーサビブ静注透析用	45	15.6%	81	80	△0.6%
カイトロリス点滴静注用	42	18.6%	71	75	5.3%
ペレキシブル錠	29	497.2%	21	50	142.6%
オノアクト点滴静注用	23	8.8%	47	40	△14.1%
オパルモン錠	24	△16.8%	55	40	△26.7%
リバスタッチパッチ	16	△61.7%	66	30	△54.6%
ピラフトピカブセル	14	301.0%	11	30	180.6%
メクトピ錠	11	234.9%	10	25	150.9%
オノンカブセル	18	49.6%	29	25	△14.2%
オンジェンティス錠	9	1,477.7%	3	25	631.1%
当期新発売品	5	—	—	25	—

## 選択的SGLT2阻害剤「フォシーガ<sup>®</sup>錠」、新たな効能・効果の承認取得

2021年8月に、選択的SGLT2阻害剤「フォシーガ<sup>®</sup>錠」は、新たな効能・効果として「慢性腎臓病」の承認を取得しました。慢性腎臓病（CKD）は、腎機能の低下を伴う重篤な進行性の疾患で、多くの場合、心疾患や脳卒中の発症リスクの増加と関連しており、日本では約1,300万人が罹患していると推定されています。「フォシーガ<sup>®</sup>錠」は日本で初めてCKDの治療薬として承認された薬剤であり、今回の承認取得により、日本の多くの慢性腎臓病患者さんにとって大きな希望となるものと期待されます。

## 「オプジーボ<sup>®</sup>点滴静注」、新たな効能・効果の承認を取得

2021年5月～9月に、抗PD-1抗体「オプジーボ<sup>®</sup>点滴静注」について日本、韓国、台湾で以下の4つの承認を取得しました。

効能・効果	承認取得国
悪性胸膜中皮腫の一次治療 (抗CTLA-4抗体「ヤーボイ <sup>®</sup> 点滴静注液」との併用)	日本・韓国・台湾
胃がん、胃食道接合部がんおよび食道腺がんの一次治療	韓国・台湾
キナーゼ阻害剤「カボメティクス <sup>®</sup> 錠」との併用での腎細胞がんの一次治療	日本
小児のホジキンリンパ腫	日本

引き続き、本剤の適応がん腫の拡大を目指し開発を進め、未だ治療手段がなくて困っているがん患者さんにご使用いただけるように取り組んで参ります。

## BRAF阻害剤「ビラフトビ<sup>®</sup>カプセル」、韓国で新たな効能・効果の承認取得

2021年8月、韓国においてBRAF阻害剤「ビラフトビ<sup>®</sup>カプセル」と抗ヒトEGFRモノクローナル抗体であるセツキシマブとの併用療法が、「治療歴を有するBRAF<sup>V600E</sup>変異を有する成人の進行・再発の結腸・直腸癌」に対する新たな効能・効果の承認を取得しました。韓国では、年間約28,600人が新たに結腸・直腸がんと診断され、年間約9,700人の死亡が報告されており、BRAF<sup>V600E</sup>遺伝子変異陽性は、結腸・直腸がん患者の4.7%に認められ、BRAF<sup>V600E</sup>遺伝子変異のない場合に比べ予後が不良です。韓国ではBRAF<sup>V600E</sup>遺伝子変異陽性の結腸・直腸がんに対する効能・効果で承認された薬剤はなく、新たな治療法が必要とされています。今回の承認により、ビラフトビがアンメットニーズを満たす新たな治療選択肢になるものと期待されます。

## 売上収益

**3,450億円** 前期比 **11.5%増**

抗悪性腫瘍剤「オブジーボ点滴静注」は、非小細胞肺癌一次治療や食道がん二次治療での使用拡大、胃がん一次治療への参入を見込んでおり、112億円(11.3%)増の1,100億円を予想しています。また、主要新製品の売上拡大およびロイヤルティ収入の増加により、通期の売上収益は前期比357億円(11.5%)増の3,450億円を予想しています。

## 営業利益

**1,030億円** 前期比 **4.7%増**

製品商品の売上増加に伴い、売上原価は前期比94億円(11.0%)増の950億円と予想しています。研究開発費は積極的な投資を行うため、前期比96億円(15.4%)増の720億円、販売費及び一般管理費は前期比48億円(6.9%)増の740億円と予想しており、通期の営業利益は前期比47億円(4.7%)増の1,030億円を予想しています。

## 税引前当期利益

**1,050億円** 前期比 **4.1%増**

金融収支等は、前期比6億円(21.8%)減の20億円を見込んでおり、通期の税引前当期利益は前期比41億円(4.1%)増の1,050億円を予想しています。

## 親会社の所有者に帰属する当期利益

**815億円** 前期比 **8.1%増**

通期の親会社の所有者に帰属する当期利益は、前期比61億円(8.1%)増の815億円を予想しています。

注) 新型コロナウイルス感染症により、引き続き一定の活動制限が継続されることを想定しておりますが、営業利益に与える影響は軽微であると見込んでおります。

# 開発品の主な進捗状況

## 開発品の主な進捗状況

(2021年10月22日現在)

### ■ がん領域の主な進捗状況

製品名(開発コード)/一般名	剤型	予定効能	開発ステージ				地域
			PI	PII	PIII	申請	
オブジーボ点滴静注	注射	尿路上皮がん	■	■	■	■	日本
		原発不明がん	■	■	■	■	日本
		肝細胞がん	■	■	■		日本・韓国
		卵巣がん	■	■	■		日本・韓国・台湾
		膀胱がん	■	■	■		日本・韓国・台湾
		前立腺がん	■	■	■		日本・韓国・台湾
		膵がん	■	■	■		日本・韓国・台湾
		胆道がん	■	■	■		日本
		ウイルス陽性・陰性固形がん	■	■	■		日本・韓国・台湾
ヤーボイ点滴静注液*	注射	食道がん	■	■	■	■	日本
		胃がん	■	■	■		韓国・台湾
		尿路上皮がん	■	■	■		日本・韓国・台湾
		肝細胞がん	■	■	■		日本・韓国・台湾
		ウイルス陽性・陰性固形がん	■	■	■		日本・韓国・台湾
			■	■	■		日本
ONO-7701*/Linrodostat	錠	膀胱がん	■	■	■	■	日本・韓国・台湾
ピラフトピカプセル	カプセル	甲状腺がん	■	■	■		日本
メクトピ錠	錠	甲状腺がん	■	■	■		日本
ONO-4686*	注射	固形がん	■	■	■		日本
ONO-4482*/Relatlimab	注射	悪性黒色腫	■	■	■		日本
ONO-7807*	注射	固形がん	■	■	■		日本

★「オブジーボ」との併用試験

※がん領域の開発品において、同じ予定効能(がん腫)の場合は、最も進んでいるフェーズ(臨床ステージ)を記載しています。

# 開発品の主な進捗状況

製品名(開発コード)/一般名	剤型	予定効能	開発ステージ				地域
			PI	PII	PIII	申請	
ONO-7912/Devimistat	注射	膵がん	■				日本
		急性骨髄性白血病	■	■			韓国
		急性骨髄性白血病	■	■			韓国
ONO-7475	錠	固形がん*	■				日本
		EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌	■				日本
		急性白血病	■	■			米国
ONO-4578	錠	結腸・直腸がん*	■				日本
		膵がん*	■				日本
		非小細胞肺癌*	■				日本
		固形がん・胃がん*	■				日本
		ホルモン受容体陽性HER2陰性乳がん	■				日本
ONO-7913/Magrolimab	注射	膵がん*	■				日本
		結腸・直腸がん*	■				日本
		固形がん	■				日本
		骨髄異形成症候群	■				日本
ONO-7911*/ Bempegaldesleukin	注射	固形がん	■				日本
ONO-7119*	錠	固形がん	■				日本
ONO-4059	錠	中枢神経系原発リンパ腫	■	■			米国
ONO-4685	注射	T細胞リンパ腫	■				米国

★「オブジーボ」との併用試験

※がん領域の開発品において、同じ予定効能(がん腫)の場合は、最も進んでいるフェーズ(臨床ステージ)を記載しています。

## ■ がん領域以外の主な進捗状況

製品名(開発コード)/一般名	剤型	予定効能	開発ステージ				地 域
			PI	PII	PⅢ	申請	
オレンシア皮下注	注射	多発性筋炎・皮膚筋炎	■	■	■		日本
オノアクト点滴静注用	注射	心機能低下例における頻脈性不整脈(小児)	■	■	■		日本
ペレキシブル錠	錠	天疱瘡	■	■	■		日本
		全身性強皮症	■				日本
ONO-2910	錠	糖尿病性多発神経障害	■	■	■		日本
ジョイクル関節注	注射	腱・靭帯付着部症	■	■	■		日本
ONO-2808	錠	神経変性疾患	■				日本・欧州
ONO-4685	注射	自己免疫疾患	■				日本・欧州
ONO-2909	錠	ナルコレプシー	■				日本
ONO-7684	錠	血栓症	■				欧州

## 新薬開発の流れ

### 基礎研究

薬になる可能性がある新規物質(有効成分)の発見と創製。天然素材からの抽出や、化学合成、バイオテクノロジーなどの手法を活用して、新規物質を創製します。

### 非臨床試験

薬になる可能性がある物質について、動物や培養細胞を用い、有効性と安全性を調べます。また、その薬物動態や品質、安定性なども調べます。

### 臨床試験(治験)

薬の候補物質(治験薬)について、ヒトに対する有効性と安全性を調べるために行う試験で、通常は3段階に分かれています。健康な人や実際の患者さんを対象に実施されます。

第Ⅰ相試験(フェーズⅠ:PⅠ)  
健康者による安全性の確認

第Ⅱ相試験(フェーズⅡ:PⅡ)  
少数の患者さんによる有効性と安全性の確認

第Ⅲ相試験(フェーズⅢ:PⅢ)  
多数の患者さんによる有効性と安全性の確認

### 承認申請と審査

臨床試験で有効性と安全性が確認された後、医薬品医療機器総合機構(PMDA)に承認の申請を行います。その後、学識経験者などで構成する薬事・食品衛生審議会などで審査されます。審査を通過すると、新薬として製造が承認されます。

## 提携活動

### ■ Healx社と研究提携契約を締結

2021年8月に、Healx社と、同社独自の人工知能技術を活用したアンメットメディカルニーズを満たす革新的な治療薬の創製を目的とした研究提携契約を締結しました。Healx社は、2014年に設立されたAI技術を通じて世界の患者さんへ新たな治療薬を提供するために次世代創薬手法を切り拓くバイオ医薬品企業です。Healx社は、独自の人工知能技術を用いて、当社の化合物資産に対して複数の候補疾患とその作用機序を予測し、当社は、特定された候補疾患に対して当社の化合物資産での検証試験を実施します。当社の新薬候補化合物のプロファイリングデータとHealx社の人工知能技術を組み合わせることで、高い精度をもって臨床適応症の探索効率を高め、新薬候補化合物の特定効率が高まることを期待しています。

### ■ ミラバイオロジクス社とバイオ医薬品の創薬提携契約を締結

2021年8月に、ミラバイオロジクス株式会社(ミラバイオロジクス社)と、ミラバイオロジクス社独自の環状ペプチド探索法とタンパク質工学を融合させた新技術LassoGraft Technology<sup>®</sup>を活用した次世代バイオ医薬品の創製を目的とした創薬提携契約を締結しました。ミラバイオロジクス社は、2017年に創立されたバイオ医薬品の創薬研究を行っているバイオベンチャー企業で、独自に開発したLassoGraft Technology<sup>®</sup>を用いて、二重特異性抗体などの次世代多機能バイオ医薬品の創製を目指しています。本提携によりミラバイオロジクス社は、LassoGraft Technology<sup>®</sup>を用いて、当社が選定した複数の創薬標的を制御するバイオ医薬品の創製に取り組みます。当社は、創製されたバイオ医薬品の候補化合物を全世界で独占的に開発・商業化していきます。



ミラバイオロジクス社  
(建物設計・監理:株式会社日総建)

## 米国展開の進展

### ■ 米国で「ベレキシブル」の第2相臨床試験を開始

2021年7月に、米国でブルトン型チロシンキナーゼ(BTK)阻害剤「ベレキシブル」の中枢神経系原発リンパ腫患者を対象とした第2相臨床試験を開始しました。ベレキシブルは、日本において2020年3月に「再発又は難治性の中枢神経系原発リンパ腫」の効能・効果で製造販売承認を受け、2020年5月に発売しています。その後、2020年8月に日本において「原発性マクログロブリン血症及びリンパ形質細胞リンパ腫」の効能・効果の追加承認を取得しています。

ベレキシブルは、当社が創製した選択性の高い経口BTK阻害剤であり、がん領域以外では、日本において天疱瘡(第2相試験)および全身性強皮症(第1相試験)を対象とした臨床試験も実施しています。今後も米国をはじめ世界の多くの患者さんにベレキシブルを提供できるよう取り組んでいきます。

### ■ 米国でONO-4685の第1相臨床試験を開始

2021年10月に、米国でONO-4685のT細胞リンパ腫を対象とした第1相臨床試験を開始しました。ONO-4685は、当社の創薬提携先であるMerus社の多価抗体技術を利用して創出したヒトのPD-1およびCD3に特異的に結合する抗PD-1/CD3二重特異性抗体で、日本および欧州で自己免疫疾患を対象とした第1相臨床試験も実施しています。

### ■ 米国での組織体制の強化

米国子会社であるONO PHARMA USA, INC.は、米国での自社製品発売に向けて臨床開発から承認取得までを実施できる体制の確立を目指しています。2021年9月には販売統括責任者を採用するなど、米国での自社販売を見据えた準備も進めています。

## CSR 活動

## ■ FTSE Russell社、MSCI社等が提供するESG投資指数の構成銘柄に継続選定

当社は、ESG(環境・社会・ガバナンス)投資指数の構成銘柄として、「FTSE4Good Index Series」および「FTSE Blossom Japan Index」(FTSE Russell社)に4年連続、「S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数」(東京証券取引所およびS&Pダウ・ジョーンズ・インデックス社)に4年連続、さらに「MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」(MSCI社)に3年連続で選定されました。なお、「FTSE Blossom Japan Index」、「S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数」と「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」は、運用資産が世界最大規模の年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が投資対象を選定するにあたり採用している指数です。



FTSE4Good

FTSE Blossom  
Japan2021 CONSTITUENT MSCIジャパン  
ESGセレクト・リーダーズ指数

**免責事項：**小野薬品工業株式会社のMSCIインデックスへの組み入れや、本件お知らせにおける本投資法人によるMSCI社のロゴ・商標・サービスマーク並びにインデックス名の使用は、MSCI社及びその関係会社による小野薬品工業株式会社へのスポンサーシップ、宣伝、販売促進を企図するものではありません。MSCI指数はMSCI社に独占権があり、MSCI社及びMSCI指数及びそのロゴは、MSCI社及びその関連会社の商標・サービスマークです。

## ■ カーボンニュートラル都市ガスの導入

2021年8月、中長期環境ビジョン(ECO VISION 2050)のもと、事業活動に伴って排出される温室効果ガスの削減に向けての取り組みの一つとして、当社筑波研究所にカーボンニュートラル都市ガス(CN都市ガス)<sup>\*1</sup>を導入するとともに、カーボンニュートラルLNG(CNL)バイヤーズアライアンス<sup>\*2</sup>に加盟しました。東京ガス株式会社が供給するCN都市ガスの導入は、製薬業界では初となります。今後は、他の事業所においても、CN都市ガスの導入を進めていきます。



<sup>\*1</sup> カーボンニュートラル都市ガス：天然ガスの採掘から燃焼に至るまでの工程で発生する温室効果ガスを、CO<sub>2</sub>クレジットで相殺し、燃焼させても地球規模ではCO<sub>2</sub>が発生しないとみなす液化天然ガス(カーボンニュートラルLNG)を原料とする都市ガス。

<sup>\*2</sup> カーボンニュートラルLNGバイヤーズアライアンス：持続可能な社会の実現に向け、CNLを調達・供給する東京ガスと購入する企業・法人が一丸となり、CNLの普及拡大とその利用価値向上の実現を目的として設立された団体。

## 人財育成

### ■ イノベーション人財育成プログラムを開始

当社は、企業価値を向上させ、持続的に成長するために「企業基盤の強化」の推進に取り組んでいます。「企業基盤の強化」における重要なテーマの一つが新たなイノベーション創出の源泉となる「人財」の育成であり、社員の挑戦を後押しするような企業風土づくりです。2021年5月には、従来の人財育成施策に加え、さらに多面的かつ集中的にイノベーションを起こせる場を提供するOno Innovation Platform（OIP）を開設しました。OIPでは「学習」、「経験」および「挑戦」の3つの場を提供しています。

#### 学習の場

#### 知る・触れる・体験する

2021年6月より、研修・ワークショップ“Innovation Cafe”を開設し、最新のビジネストレンドを学ぶセミナーや、デザイン思考に基づいた課題の解決手法のケーススタディなどを実施しています。

#### 経験の場

#### ベンチャーを経験する

2021年5月より、ベンチャー出向プログラム“V2V”を開始しており、10月1日より5名の社員が出向しています。ベンチャー企業に1年間出向し、ベンチャー企業の一員として働くことで、社内ではできない経験を積み、イノベーション人財としての成長を促すことが狙いです。出向先で事業開発に貢献するとともに、帰任後は得られた経験を社内に還元することで、当社の組織力の強化につながります。

#### 挑戦の場

#### 社員の挑戦と会社の支援

2021年5月より、社内ビジネスコンテスト“HOPE”を開催しています。社員が学習・経験したことを実践に結びつける自主的な挑戦の場として位置づけ、イノベーションの創出と人財の育成を積極的に支援しています。このプログラムでは、社員自身が自らのアイデアを起点とし、当社の事業領域にとらわれることなく幅広い顧客課題に向き合い、新たな解決策を提案します。

## ■ 会社概要

社名	小野薬品工業株式会社
英文社名	ONO PHARMACEUTICAL CO., LTD.
創業	享保2年(1717年)
設立	昭和22年(1947年)
資本金	17,358,275,607円
事業内容	医療用医薬品を主体とする各種医薬品の研究、開発、製造、仕入および販売
従業員数	3,685名(連結) 3,378名(単体)

## ■ 主要な事業所

本社	〒541-8564 大阪市中央区久太郎町一丁目8番2号 電話 06-6263-5670 〔登記簿上の本店所在地 大阪市中央区道修町二丁目1番5号〕
事業所	札幌、仙台、東京、横浜、名古屋、京都、 大阪、高松、広島、福岡ほか全国主要都市
工場等	フジヤマ工場(静岡県)、山口工場(山口県)、 城東製品開発センター(大阪府)
研究所	水無瀬研究所(大阪府)、福井研究所(福井県)、 筑波研究所(茨城県)
海外子会社	オノ・ファーマ・ユー・エス・イー・インク(米国マサチューセッツ州) オノ・ファーマ・ユー・ケー・リミテッド(英国ロンドン) 韓国小野薬品工業株式会社(韓国ソウル) 台湾小野薬品工業股份有限公司(台湾台北)

## ■ 役員

代表取締役 取締役社長	相良 暁
取締役 専務執行役員	辻中 聡 浩
取締役 専務執行役員	滝野 十一
取締役 常務執行役員	小野 功 雄
取締役 常務執行役員	出光 清 昭
社外取締役	野村 雅 男
社外取締役	奥野 明 子
社外取締役	長 榮 周 作
常勤監査役	西村 勝 義
常勤監査役	谷坂 裕 信
社外監査役	菱山 泰 男
社外監査役	田辺 彰 子

# 株式の状況 (2021年9月30日現在)

## ■ 株式数

- 1. 発行可能株式総数 ..... 1,500,000,000株
- 2. 発行済株式の総数 ..... 528,341,400株  
(自己株式29,115,292株を含む)

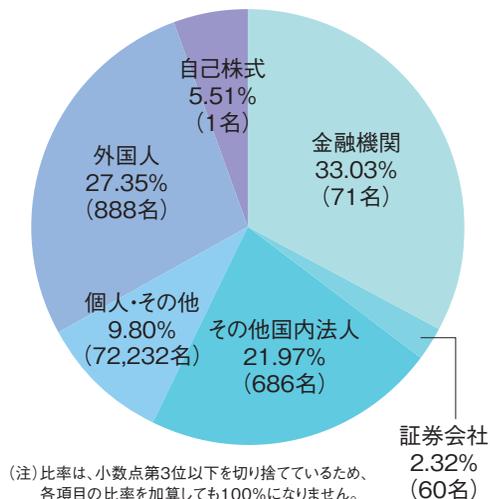
■ 株主数 ..... 73,938名

## ■ 大株主

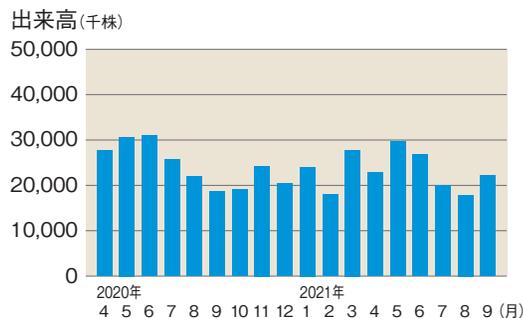
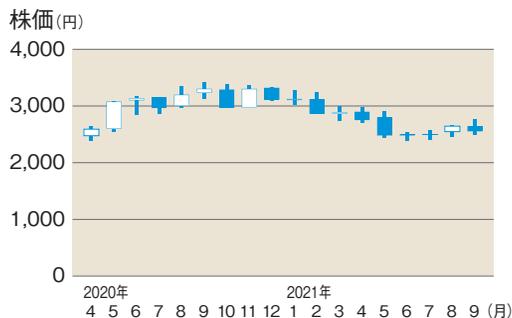
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	67,531	13.52
株式会社日本カステディ銀行(信託口)	28,578	5.72
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505001	21,295	4.26
明治安田生命保険相互会社	18,594	3.72
公益財団法人小野奨学会	16,428	3.29
株式会社鶴鳴荘	16,161	3.23
株式会社三菱UFJ銀行	8,640	1.73
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	8,193	1.64
株式会社日本カステディ銀行(信託口7)	7,740	1.55
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティー 505234	7,388	1.47

- (注) 1. 当社は自己株式29,115千株を保有していますが、上記大株主には記載していません。  
2. 持株比率は、自己株式(29,115千株)を控除して算出しています。

## ■ 所有者別の株式分布状況



## ■ 株価および株式売買高の推移



# 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
定時株主総会	6月中	および特別口座	三井住友信託銀行株式会社
基準日	定時株主総会・期末配当：3月31日 中間配当：9月30日	の口座管理機関	
公告の方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告を掲載するホームページのアドレス <a href="https://www.ono.co.jp/">https://www.ono.co.jp/</a>	株主名簿管理人	大阪府中央区北浜四丁目5番33号
上場証券取引所	東京証券取引所(証券コード4528)	事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
単元株式数	100株	郵便物送付先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063
		および	
		各種お問合せ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00(土日休日を除く)
		同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国本支店

## 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

## 未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

## 株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きで必要となりますので、株主様のマイナンバーにつきましては、お取引の証券会社等へお届出ください。

### 株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、株主様のマイナンバーは支払調書に記載して税務署へ提出いたします。

- **マイナンバーを記載する主な支払調書**
  - 配当金に関する支払調書
  - 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

### マイナンバーのお届出に関するお問合せ先

- **証券口座にて株式を管理されている株主様**  
お取引の証券会社までお問合せください。
- **証券会社とのお取引がない株主様**  
下記のフリーダイヤルまでお問合せください。  
**三井住友信託銀行株式会社 証券代行部**  
電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)  
受付時間 9:00~17:00(土日休日を除く)

ホームページアドレス

<https://www.ono.co.jp/>

